

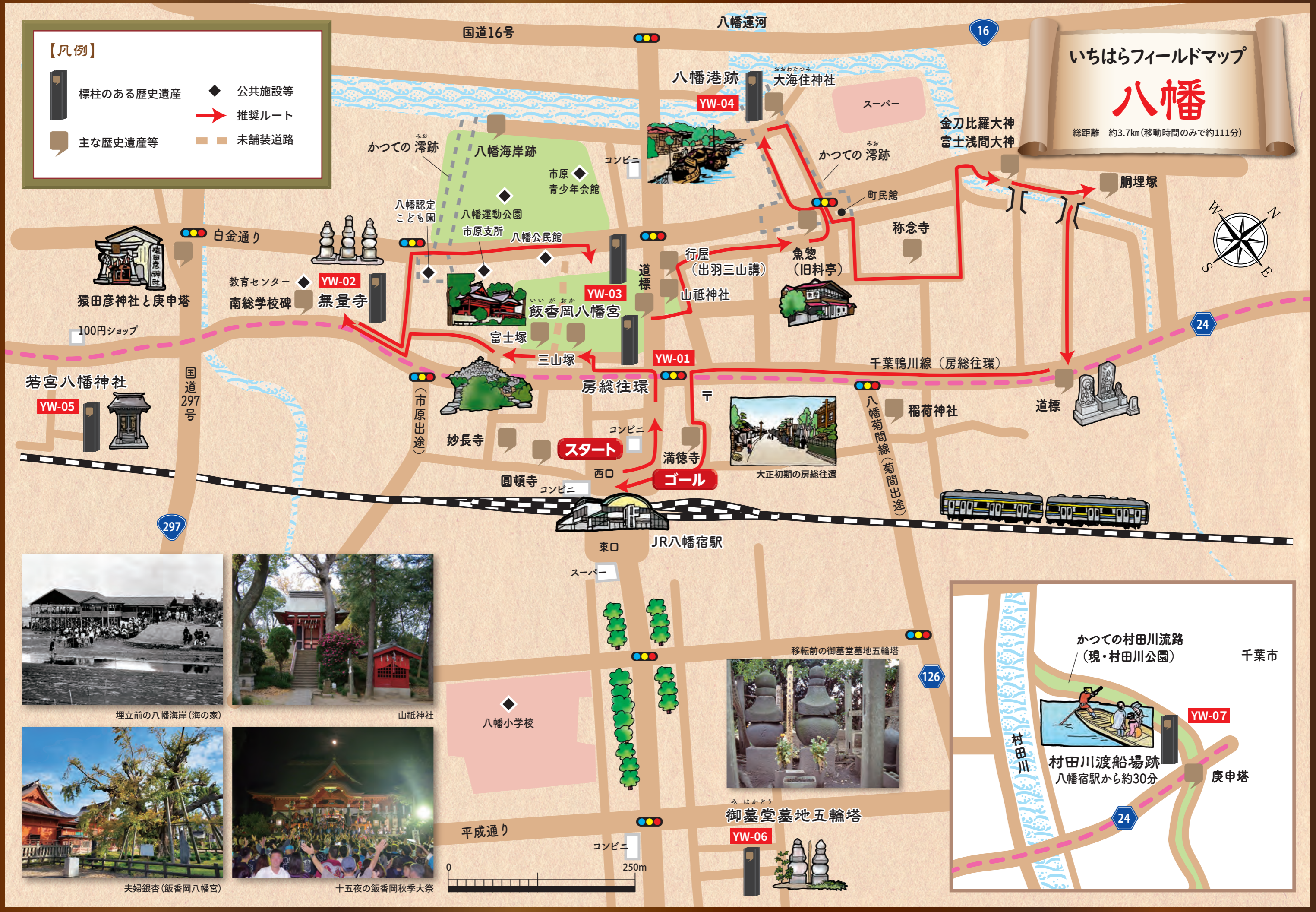
【凡例】

- 標柱のある歴史遺産
- ◆ 公共施設等
- 主な歴史遺産等
- 推奨ルート
- 未舗装道路

いちばらフィールドマップ

八幡

総距離 約3.7km(移動時間のみで約111分)



埋立前の八幡海岸(海の家)



山祇神社



夫婦銀杏(飯香岡八幡宮)



十五夜の飯香岡秋季大祭



八幡小学校



御墓堂墓地五輪塔



村田川渡船場跡
八幡宿駅から約30分

YW-07

庚申塔





YW-04 八幡港跡

江戸時代以降、江戸・東京との海運拠点として五大力船等多くの船が停泊し、上総国内からの年貢米や九十九里浜の海産物等が集積する港でした。周辺は、五大力船の船主や商家、料亭等が建ち並び賑やかな界隈となっていました。港は戦後に埋め立てられました。縦溝と横溝から成るT字型となっていました。付近には水神様として大海住(オオワタヅミ)が祀られています。



YW-07 村田川渡船場跡

河口付近が上総と下総の境を流れ「境川」と呼ばれていた村田川は、かつて現在の村田川公園内を流路としていました。そこには渡船場が設けられ、明治7年に架橋されるまで、人びとは渡し船で対岸へ渡っていました。水戸黄門として知られる徳川光圀がこの地を通過した際には、船を並べて繋いだ上に板を渡した船橋をかけて渡河し、飯香岡八幡宮や姉崎の妙経寺を訪れました。



YW-05 若宮八幡神社

創立年代は不詳ですが、海中に光るものを地元民がすくい上げて祀ったことに始まると伝えられます。地元では元宮様と呼ばれ、一説に飯香岡八幡宮の元の宮だったとの伝承があります。境内には『神名帳考証土代』の一節を刻んだ由来碑があります。祭神は仁徳天皇です。現在の社の扉の左右にある彫刻は、飯香岡八幡宮の祭礼で使用された五所地区の山車についていたものです。



YW-06 御墓堂墓地五輪塔

室町時代に造立された供養塔で、小弓公方足利義明と妻の墓石とも言われています。義明は、古河公方足利政氏の次男で、真里谷武田氏に招かれ八幡、そして小弓城に入りました。天文7年(1538)の国府台合戦で北条氏に敗れて没し、現在の八幡駅周辺にあった霊応寺(廃寺)に妻とともに仮埋葬されたと伝承されました。霊応寺付近にあった五輪塔は区画整理に伴い現在地に移されました。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合があります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 Tel.0436-41-9000 Fax.0436-42-0133
令和3年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

八幡



飯香岡八幡宮の門前町として発展してきた八幡エリア。祭礼の活気あふれ、海と共に築かれた生活文化が感じられます。水陸交通の要衝だったこの地は、武将や文人たちの足跡と、商家が軒を連ねた面影を今に伝えています。

I Museum



YW-01 房総往還

この道は、船橋で佐倉道と分岐し、木更津を経て館山に至ります。市原市内では八幡・五井・姉崎に継場が置かれて荷物や物資を輸送する人馬の継ぎ替えが行われ、参勤交代や旅の人びとの通行にも利用されました。また、往還沿いの海岸には、海上交通で江戸と房総をつなぐ湊が点在していました。湊と湊を結ぶ房総往還は、人・モノの往来に大きな役割を果たしていたのです。



YW-02 無量寺

白鳳年間の創建と言われる浄土宗寺院で、前身は「宝樹坊」と称していたとの伝承があります。本尊は、地元漁民が海上で大波を受けた際、海中から出現し救ったとされる阿弥陀如来です。飯香岡八幡宮の前身市原八幡宮と密接な関係にあり、近世の町場の基礎を築いた、千葉氏系の原氏の影響下にあったとされます。境内には千葉(馬加)康胤と子の墓とされる五輪塔があります。



YW-03 飯香岡八幡宮

白鳳年間の創建、一国惣社八幡宮と称したと伝えられます。中世の史料に見える市原八幡宮は前身社で、鎌倉・室町両幕府に篤く保護されました。近世以降は、安産子育てを願う民衆にも広く信仰されました。室町時代の建造とされ国の重要文化財に指定されている本殿や、足利義満が奉納したとされる至徳元年(1384)銘の神輿、境内の夫婦銀杏等、多くの文化財を有しています。